

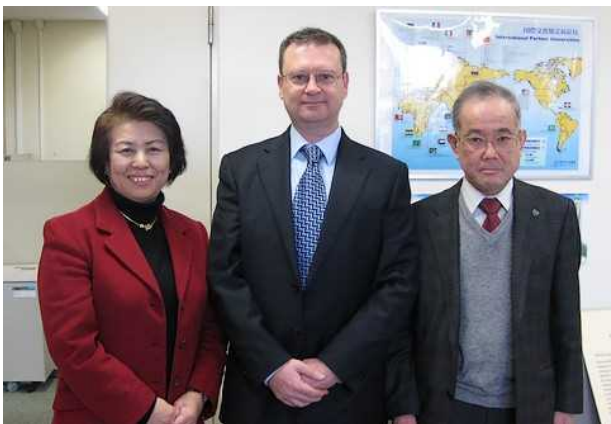
三重大学教育学部

国際交流 ニュースレター

No. 18

International Programs Newsletter

国際交流ニュースレター No. 18
三重大学教育学部国際交流委員会
2013 (平成 25) 年 2 月 21 日発行



左から、朴恵淑国際担当理事・Ignasi Navarro i Ferrando 氏・早瀬光秋教授

vice-presidents (Professors Park and Ehara), deans (Professor Ito, at the Graduate School of Engineering, and Professor Yagi, at the Faculty of Education), as well as other professors and members of staff related to international affairs. At the end of my stay, I have verified that the relationship between Mie University and *Jaume I* University is becoming stronger and stronger, and I am convinced that collaborative activities between our institutions will increase in the future. I feel deeply encouraged to bring the message to my colleagues at *Universitat Jaume I*.

Thank You very much, dear colleagues at Mie University, and very especially to the professors at the Department of English. I hope we see each other again pretty soon. I already look forward to it.

外国人研究者

Foreign Researcher

三重大学の国際交流協定校であるスペイン国ジャウメプリメル大学人文学部の Ignasi Navarro i Ferrando 博士 (英語学) は、日本における外国語教育研究と国際交流開発を目的として、1月10日から26日まで教育学部に滞在され、英語科での講演、国際交流関係者との面会等を精力的に熟されました。

Mie University and *Universitat Jaume-I* meet again

Professor Ignasi Navarro i Ferrando,
from *Universitat Jaume I*, Spain

This month –January, 2013– our institutions met once more by virtue of my visit to Tsu campus. After our first encounter, in 2009, this has been my second stay at Mie University, for a period of 17 days. This time, my activities on campus have been both academic and institutional. In the academic field, I participated in teaching events at the Department of English Teaching (Faculty of Education), including two lectures, one of them on English Linguistics, and the other on the practice and system of teaching of English in Spain. In addition, I participated as an active observer in a few classes both at the Education and at the Humanities Faculties, on English teaching and Spanish language, respectively. It must be said that I take away with me a wonderful impression about the teaching practice at Mie. Let me express my gratitude to all the teachers and professors who allowed me to participate in their classes, as well as to all the people I met, including postgraduate students, who offered me their warm affection and help, whenever I needed it. On the institutional field, these two and a half weeks have been amazingly fruitful, since I had the opportunity to hold meetings with a large range of personalities in charge of different positions, including



“Semantics of English Prepositions”と題した英語科での講演

国際インターンシップについて

日本語教育コース 3年 石川千晴

私は今年の10月から2週間、国際交流センター主催の国際インターンシップに参加しました。私がこの行事に参加した理由は、海外や日本語教育に関心があり、日本語教育が盛んなアジアで生の日本語教育を見てみたい、発展途上国の学校現場を見てみたいという思いがあったからです。私の派遣先はベトナムのホーチミン市師範大学というところでした。ベトナムは日本よりずっと熱く雨も多く降り、都市に人口が集中しているため、市内ではバイクは日本の何十倍もの数が走っていて、来たばかりの頃は、一人で横断歩道を渡ることさえできませんでした。ひたたりや詐欺なども少なくないそうです。それらを心配してくださった師範大学日本語学科の皆さんはわざわざ電話して私のところまで来て私を寮まで送ってくれたり、送れないときはバス停で同じバスを待っている学生に頼んで、降りる



ホーチミン市師範大学日本語学科の学生と

バス停に着いたときに知らせてくれたり、休日にはわざわざ旅行会社に頼んで、メコンデルタツアーを予約して下さったり、2週間という短い時間でしたが、沢山の方々に支えられて乗り越えることができましたと思います。また日本語学科の学生とはまだ日本語を習って数か月、数年だというのに、私に積極的に日本語で話しかけてくれました。「ドラえもん好き？」とか「嵐の中で誰がファン？」などと尋ねられた時は驚きました。私が「なぜ日本語を勉強しているの？」と尋ねると「日本語の漫画が好きだから！」「日本で働きたいから！」と答えます。そのたび日本の文化や日本人はとても愛されているんだなあと感じます。日本人は英語を最低3年、高校、大学まで行けば6年以上も勉強します。しかし、英語が流暢に話せるのがごく一部です。外国のことばを話せるようになるためには、師範大学の学生さんたちのようにまずは、その国の文化を好きになること、興味を持つことが始まるのではないかと彼らと話して痛感しました。



実習授業の様子

私は2週間で日本語の会話・文法・発音の授業を計5コマ持ちました。とくに苦労したのは発音と会話でした。例えば授業中、「なつやすみ」「たかかった(高かった)」の発音練習をすると何度練習しても「なちゅやすみ」「たかかつた」となってしまう。これは日本語にLとRの発音がないから区別しづらいのと同じように、ベトナムにも「つ」「っ」がないので発音が困難なのです。私は今まで日本語教育のなかでも文法や指導法ばかりに目を向けていたので、発音の指導にはかなり苦労しました。また文法もイ形容詞(国語文法でいう形容詞)とナ形容詞(国語文法でいう形容動詞)の区別や活用、敬語、日本料理の名前など、この2週間で日本語教育のさまざまな問題にぶつかりました。やはり日本語を話せるからと言って日本語を完璧に教えられるわけではないのです。このほかに、

現在でも、母語の転移・ら抜き言葉・全然の意味の多様化など、多くの疑問が日本語教育界にあります。このベトナムのインターンをきっかけにより日本語教育の面白さ、難しさを見つけることができました。私は現在、師範大学の留学生のチューターをしています。今でもまだまだ日本語の難しさにぶつかることはありますが、この2週間の経験を生かして、より学習者に日本語のおもしろさを伝えていけたらと思っています。



スライドを使っのプレゼン

2年前、中国人の友達が自分の研究を発表するため、タイに行ったことを話してくれた。三重大学生の一員として、海外で発表するのは素晴らしい

と思い、羨ましいとも感じた。英語で論文を書いたり、英語で発表したり、英語でコミュニケーションをとり、常に英語を使わなければならないことは確かに難しい。しかし、日本での有意義な留学生生活を過ごすために、チャンスがあれば私もぜひチャレンジしたいと考えた。英語能力が高まるし、自分の研究することにやる気も出るし、各国に友達もできるし、とても価値がある国際活動だのではないか。しかしその時私は一年生で、専門知識がまだ不十分だったので不安で参加しなかった。2年後、国際交流センターの掲示板に貼ってあるチラシを見て、3年生の自分にとってとてもいいチャンスだと思った。参加者に選んで頂き、ものすごく感謝にたえない、完璧な論文と発表のため、絶対に必死に頑張ると思った。

出発する前に、3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムの出発式が行われ、内田学長からお話を伺いて、機会を大切にするということが気付かされた。

今インドネシアでの記憶を思い出すと、感動したことがたくさん出てくる。印象に残っていることは主に三つある。

まず、各国の文化を学ぶことができたこと。3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムでは、劇を通して、日本のアニメ文化はもちろん、東南アジアの文化にも接することができ、特に今回の開催場所のインドネシア文化にも興味を持つようになった。インドネシアの食べ物は辛くて私には合わなかった。しかし、食べ物だけでなく、バッファローと遊んだり、田植えをしたりして意外に面白かった。また、伝統的な踊りやイスラム教などの文化との出会いもできた。

次に、日本語と英語の能力が伸びたこと。私の専門である日本語教育に関する論文を書くため、色々な文献を調べた。これを通して、日本語に対する新しい認識を持つこともあった。また、インドネシアではいつも国際言語としての英語を話していた。友達に英語を説明する時、相手が理解できるように、分かりやすい英語に言い換えて説明した。このようなことを何度も繰

第 19 回 3 大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムが 2012 年 10 月 21 日-26 日に、2011 年度から新たなホスト校となったボゴール農科大学（インドネシア）にて開催されました。インドネシアでの開催は初めてのことで、タイ、中国、オーストラリア、日本などから 100 名前後の学生・教職員が参加し、盛会となりました。三重大学からは学生 15 名教員 5 名が参加しました。教育学部からは 3 名の学生が参加し、それぞれ英語による研究発表を行い、また、ワークショップでの議論の成果を発表しました。その 3 人に参加した感想を寄せてもらいました。

り返すうちに、自分の英語も向上したと思う。こうして、私の日本語と英語の理解が深まっていった。

さらに、友情が obtain できること。発表した後、私は all the friends から「You did a good job!」 or 「You are great!」のような暖かい言葉で励ましてくれた。日本に戻ってからも、私たちの結びきずなはもっと固くなっていて、Facebook で活発にメッセージを送り合っている。2 週間前の、私の誕生日に日本・インドネシア・中国の友達たちからお祝いのバースデーメッセージをもらった。その日の朝目が覚め、携帯に表示された数十件のメッセージを見たとき、とても感動した。私にとって、インドネシアで過ごした時間は人生の財産だと思う。

最後に、3 大学に携わる方々、お世話になった先生方、日本人参加者の友達には私はとても感謝の気持ちしている。おかげで私は、今日本語・英語に対する情熱をもっと高めることができている。これからも頑張っていきたいと考えた。少しでもこの世の、皆さんに恩返しができるように。



エクスカージョン（水牛に乗ったり、田植え演習等を行う）

■ 念願の TRI-U とみんなへの感謝-インドネシア ■

私が TRI-U (3 大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム)を知ったのは、私が大学 2 年の春に行ったベトナムスタディーツアーの真最中であつた。先生 1 人と私を含め学生 4 人で行ったベトナムスタディーツアー。メンバーのうち学生 2 人が既に TRI-U に参加していて、2 人がとても楽しそうに話すその内容に私は釘付けになってしまったのである。幼い頃から外国に対する興味は持っており、それは大学生になってからも変わらなかった。詳しいことはよくわからないが、そんなことはおいておいて、楽しいということは間違いないようだ。その楽しみを卒業するまでに味わいたくて、TRI-U に参加したいという思いを約 1 年半持ち続けていたのである。

4 年生で TRI-U に参加するぞ!と決めたのであるが、準備が大変だった。申し込みは 5 月末。4 年生になってから始めた研究は、今回の研究発表トピックのどれにも該当しなかったため、新しい研究を急ピッチで進めた。テーマは「An Environmental Issue Revealed by the Population of Japanese Red-crowned Cranes (タンチョウの個体数から暴かれる環境問題)」だった。発表内容に関する書類審査・面接を何とか通過し、無事に選考結果に合格することができた。しかも、サブリーダーというおまけ(?)付き。ここまで来るのに何人かの先生を巻き込み、先生方にはかなりの労力を費やして頂いた。しかしその後も、夏期集中講義が 2 講座、各パーティーでの三重大からの出し物とそれに伴う練習など、やらなければいけないことは意外と多く、奨学金を頂いて行かせてもらっているという意識が私の中で強くなっていった。

インドネシアでの1週間は、一言で言うと“最高”である。ほぼ毎日がパーティーであり、インドネシアを始め参加国の文化を肌で感じる事ができた。研究発表は緊張したし、質問も瞬時に応答できず苦戦した。しかし、自分なりのベストは尽くせたから悔いはない。また、特に印象に残っていることは、インドネシア人スタッフである。彼らは私たちのような参加者ではなく、どちらかと言うとこのイベントを陰で支えてくれる人である。あるスタッフは、日程上私たちにはあまり自由時間がないという理由で、私たちの代わりにお土産を買いに行ってくれた。そのスタッフの優しさには本当に感動した。自分が楽しみたいと思って楽しめていたのは、自分の頑張りやそれを手伝ってくれた先生・三重大のメンバーだけではなく、主催側の熱心に動いているスタッフのお陰でもあった。私が気付かないだけで、他にも多くの方がイベント成功のために一生懸命動いていたのだと思うと、今でも感謝の気持ちでいっぱいになる。約1年半待ち望んでやっと参加できたこのイベント。やりたいことはやるべきだと確信したと同時に、自分一人では決して成し遂げることはできなかったとも再確認させられた。みんな、本当にありがとう。

次の開催地は三重大。果たして今年はどんな TRI-U になるのか。仲良くなった友達は来るだろうか？とても楽しみなのだが、自分自身が卒業してしまうことが悔しくて仕方がない。あの楽しかった思い出を忘れずに、いつかまた会おう。



研究発表風景



お世話になったスタッフと

■ ■ 大学生の今、世界に踏み出す第一歩 ■ ■ ■

英語教育コース3年 西尾亜利紗



今でも、つい昨日のこのように思い出されます。慣れない英語だけの会話に躊躇しながらも、たくさん笑い合った

こと、話し合ったこと。ポゴールの真っ青な空の下で、今ではなくてはならない友人となった仲間たちと過ごした6日間を、私は生涯決して忘れることはないだろうと思います。

2012年10月21日から26日にかけて、私は第19回3大学ジョイントセミナー&シンポジウムに参加しました。今年はインドネシアにあるポゴール農科大学で行われ、三重大からは私を含む計15名の学生が参加し、三重大の他にはホスト校であるポゴール農科大学をはじめ、チャンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)を中心に、国境を越えてさまざまな大学の学生が自身の研究を発表するために集結しました。開催中の日々は他の参加者の研究発表を聞き、もちろん自分の研究発表も行います。Food, Population, Energy, Environment, Ecologyという5つテーマをもとに、各分野に分かれて行われました。それと並行して各大学数人ずつ振り分けられたグループによるワークショップも行われました。私たちに与えられたテーマは“Eco Friendly”。現代が抱えるさまざまな問題を解決するためのモデルを作ってプレゼンテーションを行うというものでした。そのため、毎日とても忙しく、一日のスケジュールを終えて23時頃にホテルに戻るとワークショップのためにグループで集まり、各自の専門分野を活かして意見を出し合っては手分けしてモデル作りに励みました。自分の部屋に戻るのは深夜2時頃。

翌朝7時には会場に向かうためのバスに乗らなければなりませんでした。

正直なところ、体はへとへとでした。ポゴールの慣れない気候もあり、部屋に戻るとベッドに倒れこんですぐにぐっすり眠ってしまう毎日でした。けれど、本当に楽しかった。心はずっとわくわくして、弾んでいました。目新しいポゴールの街並みから受ける刺激、研究発表、ワークショップを通して得られる他者の思いもよらない考え方、他の学生の圧倒的な英語力の影響を受けて日を重ねるごとに伸びていく自分の英語力、そして何より、何気ない会話をして、一緒に踊ったり歌ったり、ばかなことをして笑い合って大騒ぎをしたり、国境を越えて同じ学生として楽しむみんなとの時間が、疲れなんてすっかり忘れてしまうほど楽しくて仕方ありませんでした。

今でもみんなとは連絡を取り続けています。分野は違えど、切磋琢磨する国境を越えたよきライバルとして、またお互いの学びに敬意をもって高め合う仲間として、そしてともに笑い合い、何気ない会話を楽しむ友達として、今もこれからもずっと私にとってかけがえのない存在です。大学生の今、大学を出て、日本を出て、世界に踏み出した第一歩は、想像をはるかに超えた大きな世界を私に見せてくれました。そんな大きな世界を、この一歩から、二歩、三歩と進めるにつれて、私にとっても見慣れた親しい世界にできるよう、まだまだ遠く長く続いていくこの道を歩み続けていきたいと思っています。



写真↑ Welcome Party : インドネシアの伝統衣装パチックを着て

写真→ Workshop : 休憩中にメンバーみんなで